

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

黄斑部毛細血管拡張症2型に関する調査研究

研究分担者

東京女子医科大学・医学部・教授 飯田 知弘  
京都大学・医学研究科・教授 辻川 明孝  
横浜市立大学・医学研究科・客員教授 柳 靖雄  
琉球大学・大学院医学研究科・教授 古泉 英貴

研究要旨：黄斑部毛細血管拡張症2型は視力障害の原因となり、治療法が確立されていない疾患である。国際的にも診断基準がないため、厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班を中心として、我が国における診療ガイドラインを作成し日本眼科学会雑誌に掲載した。診療ガイドラインに基づいて第一次疫学調査を行い、そのうちの症例数の多い15施設を対象に第二次疫学調査を進めている。

A. 研究目的

黄斑部毛細血管拡張症2型(MacTel)は視力障害の原因となり、治療法が確立されていない疾患である。国際的にも診断基準、診療ガイドライン、手引き等はないため、我が国における診療ガイドラインを作成し、疫学調査を行うことを目的に研究を行った。

B. 研究方法

診療ガイドラインを作成し、それに基づいた第一次疫学調査を行い患者数を確認する。さらに症例数の多い施設を対象に第二次疫学調査として画像データなどの臨床データを集めて、日本人のMacTelの特徴を把握する。

(倫理面への配慮)

臨床データの収集に当たっては各施設で倫理委員会の審査を受ける。

C. 研究結果

診療ガイドラインを作成し、日本眼科学会雑誌4月号に掲載された。また診療ガイドラインに基づいた第一次疫学調査として全国施設にアンケートを郵送した。そのアンケート結果で症例数の多い15施設を対象に第二次疫学調査として画像データなどの臨床データ収集を進めている。

#### D. 考察

診療ガイドラインを作成することにより、疫学研究や将来のデータベース化に有用になると思われる。この成果を学会誌に今後発表予定である。

#### E. 結論

黄斑部毛細血管拡張症 2 型診療ガイドライン（第 1 版）の策定と疫学調査は黄斑部毛細血管拡張症 2 型患者の福祉向上に寄与する。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし